言葉で伝え合おう

令和５年９月１日
静岡市立南中学校
学校便り９月号

「テーマ『挑戦と責任』のステ･ージで」

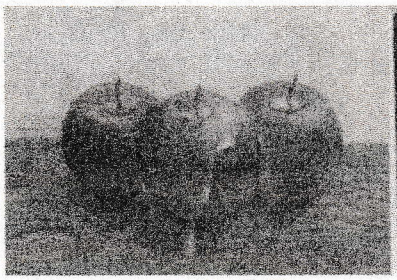
校長　長　尾　剛　史

39 日の夏休みが終わり、第２ステージの後半戦が始まりました。例年、夏休み明けの学校だよりは、中体連県大会までの活躍ぶりを伝える内容が主となります。今年も総括として、南中生、３年生の様子について伝えます。確か学校だより６月号でも書き記した覚えがありますが、私は42 期の３年生に対して、大変な誤解をしていました。42 期生は、入学当初から落ち着いた態度で話をよく聞く素直な生徒たちが多い集団という印象がありました。良く言えば「真面目な生徒たち」。「うんうん」と頷き、どんなことでも受け入れる寛容さも感じていました。逆に言えば、素直すぎるあまり、勝負強さに欠けるのではないか？　表情豊かに感情を表に出して跳ね返すエネルギーが弱いのではないかと感じる思いが私の中にありました。ところがどうでしょう。今年の中体連を振り返り、３年生への見方が、ものの見事に変わったのです。上位大会へ出場しようとする頑張りや成績はもちろんのこと、試合に臨む姿勢・態度・表情が想像を超えるものだったのです。勝った試合も負けた試合も、南中の生徒が、大会会場で、一番うれしそうな喜びの表情を見せ、一番悔しく悲しい表情を見せていたのです。「こんな見事な泣き笑いの感情表現ができる子たちだったとは…」と、胸が締め付けられる思いがしました。「内に秘めた闘志と決意」に感動したのです。感情の炎には様々な色があります。42 期生の炎は高温です。

42 期の生徒に対する思いが、右肩上がりになる最中、美術部展と吹奏楽部のコンクールがありました。作品が展示されている静岡市民ギャラリーを訪れると、美術部員の生徒数名が受け付けテーブルで待ち受け、にらみつけるような眼差しで、来場者を待ち受けているのです。それもそのはず、展示されている作品が、粘って、粘って描き上げた秀作ばかりだからです。どの作品も、何度となく壁にぶつかり、熟考を経た作品であることがすぐ分かりました。受け付けの生徒たちの眼差しは「私たちの作品を見てほしい！」という視線だったのです。誇らしく思いました。

吹奏楽部は、中部地区コンクール初日の第一演奏者として登場しました。会場の焼津市民文化会館の雰囲気は、緊張感で温まっていない状況でしたが、南中の演奏で、見事に熱を吹き込み、会場を沸かせました。また８月５日には、高松公園の夏祭りでの演奏があり、お祭りに来られた地域の方々に大変喜んでいただくことができました。吹奏楽部の伸び伸びした演奏と、統率感のある音楽性がとても魅力的で、それを学区の方たちに届けられたことをうれしく思いました。

さて、第２ステージのテーマは「挑戦と責任」です。中体連で幕開けしたこのステージは、生徒会最大行事の「駿風祭」で締めくくられます。42 期生をリーダーとした高温の炎で、大いに表情を爆発させてほしいものです。



1年 伊藤 愛莉

3年 勝間田 彩乃

2年 深澤 琴音

3年 榎本 此花

宮竹小学区自治体連合会主催「夏祭り」演奏風景

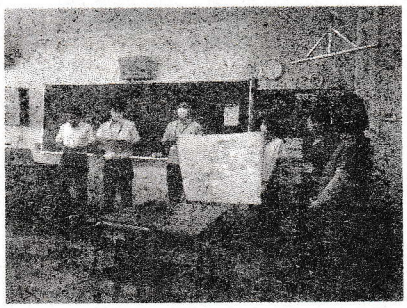
切り拓け たくましく 心ゆたかに

令和5年9月1日
第2号

小中一貫教育夏季研修会が開かれました！

7月31日（月）に南中グループ内で小中一貫教育夏季研修会が開かれました。小中の教員が入り交じって、探究学習への理解を深めるワークショップに取り組んだり、各学年部や各推進部会で各校の児童生徒の様子、力を入れている指導や支援、その成果と課題を共有したりすることができ、充実した会になりました。以下では、研修推進部会と生徒指導・特別支援教育推進部会の様子を紹介します。

研修推進部会



研修推進部会では、共通のテーマ「**どの児童生徒も参加する授業**」について、7月初旬に行った「授業を見合う会」や日々の授業を振り返り、7月までの成果と課題を話し合いました。

成果として、

- 児童生徒が課題に向かう姿勢ができている
- 友達と積極的に対話することができる

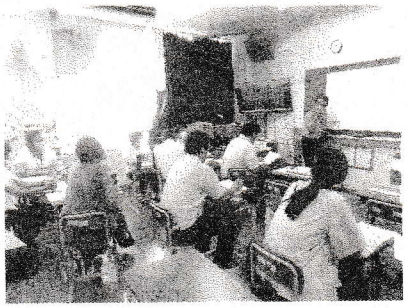
課題として、

- 児童生徒が自分の思いや考えを分かりやすく表現する

ことが挙げられました。

南中学校区の児童生徒や授業について考えるとても有意義な研修会になりました。夏季研修会で研修したことを活かして、夏休み明けから各校で授業に取り組んでいきます。

生徒指導・特別支援教育推進部会



＜生徒指導＞

①「タフな人づくり」に向けた実践」と、②「各校の校則についての情報交換」をテーマに、全体で情報を共有しました。各校での児童生徒の実態に沿った“タフな実践”や校則見直しの状況、南中で出会う際の共通認識もできました。尚、来年度のテーマも「不登校の実態と対応」という課題が出されました。（短時間でしたのでもっと深まる話し合いがしたかったです。）

＜特別支援教育＞

「教育の UD 化」をテーマに、小グループで各校の実践について情報共有をしました。環境の UD 化（全クラスで掲示物の統一、物の置き方や靴箱の使い方の統一等）や授業の UD 化（ノートの書き方の統一、手本の示し方、学び方の選択等）について活発な話し合いが行われました。UD 化の目的を常に考え、児童生徒の実態に合ったものを教師が見極めて、わかりやすく安心できる教育活動を引き続き目指していきます。

次号は、12月1日（金）に発行予定です。